

第1回

東海三県小児在宅医療研究会

第4回 岐阜県小児在宅医療研究会

医療的ケアを要する小児期発症の重症心身障がい児が年々増加し、その多くが在宅生活を送るようになっていきます。

東海三県(愛知県、岐阜県、三重県)では、在宅生活を送る障がい児者の支援に携わる医療、看護、福祉、教育、行政等関係者の連携体制の構築を目指して、それぞれの県が小児在宅医療研究会を立ち上げ、独自の取り組みを始めています。この機をとらえ、各県における連携の輪を、東海三県全体に広げ、それぞれの地域における多様な取り組みの共有を図り、相互に連携交流ができる関係づくりを通じ、東海地域全体の在宅障がい児者支援体制の充実を目指して、初めての「東海三県小児在宅医療研究会」を開催します。皆さまのご参加をお待ち申し上げております。

- テーマ** 東海三県における障がい児者在宅医療の現状と課題
日時 平成27年3月8日(日)10:00~17:00(開場 9:30)
場所 じゅうろくプラザ 2階ホール(JR岐阜駅前)

定員
400名様
(先着順)
参加無料

プログラム

基調講演

- 座長:三浦清邦 名古屋大学大学院医学系研究科障害児(者)医療学寄附講座教授
講師:江川文誠 重症児・者福祉医療施設ソレイユ川崎 施設長
演題:「生きてゆく訳と方法~医療と福祉と教育を同時に必要とする子どもたちのこと~」

シンポジウム①「各県における重症心身障がい児者の実態と支援策」

- 座長:西村悟子 岐阜大学大学院医学系研究科障がい児者医療学寄附講座准教授
演者:愛知県、三重県、岐阜県の小児・障がい児者在宅医療支援担当者

シンポジウム②「在宅障がい児者を支える地域の取り組み」

- 座長:岩本彰太郎 三重大学医学部附属病院小児トータルケアセンター長

報告

- ①「小児在宅医療において地域の急性期病院に求められる役割」
水野美穂子 社会医療法人宏潤会大同病院 副院長・小児科主任部長(愛知県)
- ②「愛知県での重症児デいの取り組みと全国への広がり」
鈴木由夫 特定非営利活動法人ふれ愛名古屋 理事長(愛知県)
- ③「地域に根ざした小児在宅医療について~開業医の立場から」
近藤 久 医療法人久愛会 近藤小児科医院 院長(三重県)
- ④「三重県における小児訪問リハビリの実際と可能性」
寺島秀幸 訪問看護リハビリステーション桜 代表(三重県)
- ⑤「三重県における在宅重症児の看護と人材育成」
河俣あゆみ 三重大学附属病院小児トータルケアセンター小児看護専門看護師(三重県)
- ⑥「共に生きる・地域で生きる~超重症者の我が子が教えてくれたこと~」
市橋美保子 人工呼吸器を使用して自宅で生活する息子さんの母親(岐阜県)

総合討論